

赤レンガ倉庫周辺整備事業

受賞機関 横浜市港湾局臨海事業部事業計画課

はじめに

横浜の赤レンガ倉庫は、現在、みなとみらい21地区の一部として、再開発の進む新港ふ頭に明治から大正にかけて建設された。レンガ組積造としてはわが国でも最大級の建築物であり、「ハマの赤レンガ」として親しまれている。この倉庫を保存、活用し、文化系施設と商業系施設として改修工事が進められるなか、その周辺を、港と歴史を感じることができ、賑わいと潤いに満ちた緑地として整備した。

事業概要

港湾緑地名：赤レンガパーク

事業期間：昭和63年～平成13年

面積：5.5ha

事業費：23億円

事業の特徴

新港ふ頭は、わが国初の近代的な島式ふ頭として、明治後期から大正初期にかけて埋立により建設された。横浜港の貿易の中心として横浜市の発展に大きく貢献したほか、移住船が出航するなど、わが国港湾の近代史とともに歩んできた。このような歴史を伝えるものとして、赤レンガ倉庫のほか、旧横浜税関事務所の遺構や旧横浜港駅プラットフォームなどが残されている。これらを赤レンガパークの施設やデザインとして取り入れるとともに、海に囲まれている立地を活かして、港の歴史と景観を楽しむことのできる空間として整備を行った。

旧横浜税関事務所は、赤レンガ倉庫と同時期に同



赤レンガパーク全景



赤レンガパークの利用状況
(赤レンガ倉庫や港の風景を眺めながら、休憩や散策が楽しめる)



じレンガ構造で建設されたが、関東大震災で倒壊し、基礎の構造のみ残されていたため、保存して沈床花壇として整備した。

旧横浜港駅は、当初横浜税関構内の荷扱所としてつくられたが、後に東京駅から運転された旅客列車が発着するようになった。そのプラットフォームの一部を改修、復元し、休憩所として利用するとともに、レールについてもパークのデザインとして取り入れている。

その他、倉庫建設当時の石畳を補修し、赤レンガパークの園路の一部として活用したり、倉庫の改修時に発生したレンガ塊をベンチに利用するなど、既存の資材を再利用する工夫を行った。また、舗装材等の素材や色、仕上げ等についても、赤レンガ倉庫や周辺との景観に配慮して整備をしている。

平成14年4月のオープン以来、古き横浜を偲ぶことのできる新しい観光スポットとして、多くの市民や観光客で賑わっている。